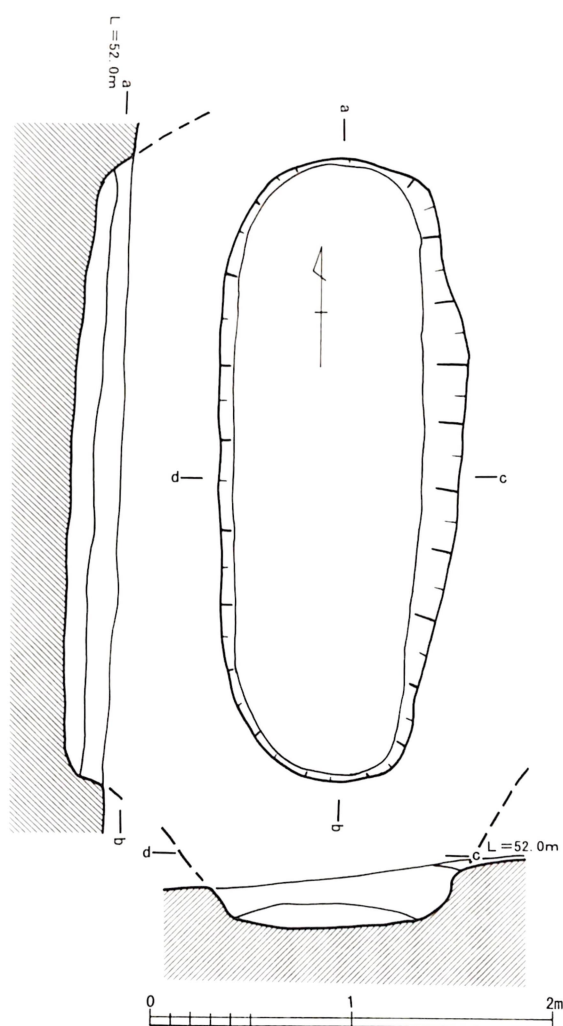




第46図 4号墳埋葬施設実測図

つたと推定されるのである。

出土遺物各説

円筒埴輪

出土した円筒埴輪は、よく底部が残っていたが上半分は破片となり墳丘下に流れていた。図版は埴輪の配置順に従って番号を附している。このうち底部の径のわかるもの五個についてみ

てみると、この円筒埴輪の直径による大きさは、大別して三種類になる。すなわち、直径約一七糎と、約一九糎と、約二一糎である。次いで、器体表面を整形したときに生じた刷毛目をみてみると、a 縦に荒い刷毛目のもの、b 刷毛目が縦・横を両用しているもの、c 刷毛目がほとんど目立たないものの三種類に分けられる。

資料をよく観察してみた場合、大きさよりも技法、刷毛目の引き方のほうが製作者の特徴を表しているようである。例えば埴輪造りの工房で複数の人がそれぞれ違う流儀で埴輪造ったとみるか、流儀の違いを表わすものは工房の違いを示すのかということになる。図版第八三・八四に示したものは、埴輪の口縁部で篋描きの記号が書かれている。いずれも破片であるので記号全体の様子が不明である。この口縁部は、大きく外反するものであり口縁端の造りの技法も三種類に分類できるのである。このような製作技法の差を生産地の違いとみるためには埴輪の胎土分析も必要であろうと考えている。

第九章 重立山五号墳の存否の問題等

一 重立山五号墳の存否の問題

この重立山古墳群の調査をするに對して、当初その墳丘の不明確さのために、一時、四号墳が後円部で三号墳が前方部になるかも知れないという想定までしたが、調査の結果、その様な不明確なものでも独立墳であることが判明したのであつた。

また、この古墳群の特徴として、相接している溝一つ隔てれば墳丘で、それが連なつて群集墳を形成しているのである。そこで四号墳の東側に深い溝があり、それによつて造り出された段が、先にも述べたように、墳丘になり得たのである。当然、その地形から言えば次にもうひとつと考えるのが人情である。我々は、その点を留意して、今までの例から次の埋葬施設となるべき場所、及びその周辺を精査したのである。

既に述べたが、地形的にも四号墳から上は丘陵の尾根というものではなく、高原的な地形へと移り変わつて行くのである。この様な場所に古墳を造るとするならば、地山直上から墳丘を築き上げねばならない。

一号墳から四号墳までは、繰り返すようだが、狭い尾根を一定間隔で掘削することによつて墳丘の大半は出来上がつてしまうことで、それは墳丘の断面からも明らかに言えることである。このことから、四号墳から見れば五号墳の存在の可能性があるわけである。

そのようなことから、五号墳が存在し、さらに上の方から六号、七号と続くかも知れず、例えば墳丘は流されて地山の線まで下つていても、地山の線まで墓壇が掘り下げられていたら、検出出来るだろうと考えて、その予想

される範囲全域にわたって調査したのであった。その結果、小片の土器、埴輪片等すら出土しなかった。このことから重立山五号墳はなかったと断定を下したのである。

二 その他の遺物

縄文土器

縄文土器は三号墳の裾部から出土した。これは厚手の土器で、表面は粗い格子の押型文土器で、縄文早期末の高山寺式土器である。

中世土器

この土器は重立山古墳群の北麓部で古墳調査用道路を造成しているときに出土したもので、甕の口縁部と胴部の一部で、越前焼と考えられる。

第十章 まとめ

最後にこの調査のまとめとして、簡単に調査の内容を述べておこう。調査を行なったのは、北陸自動車道路によって破壊される原目山三七号墳、三八号墳、三九号墳と重立山一号墳、二号墳、三号墳、四号墳、五号墳の計八基である。

原目山三七号墳は、一九七〇年に調査されたが、今度の調査は破壊、消失を前提としているので、徹底的な調

査をおこなった。その結果、埋葬施設は、地山直上の暗褐色土層の上に棺が置かれ、その上部に盛土されたもので、その後、墳頂部から掘り込まれた追葬遺構が一基あることが判明した。それゆえ先の調査の際に検出されたという一〇基の墓壙のうち、一例は若干の疑問を残すとしても、そのほとんどは事実誤認のものとして処理せざるを得なかった。また同様なことが墳丘の調査においても墳丘を取りまくテラス状のものと称するものは存在しないことが判明し、むしろ同一地点において約七〇糎深いところから溝状遺構を検出した。それは墳丘に向かって約六〇度傾斜したものであった。とするとこの墳丘の造られた当時、外側は相当な急勾配のもので、普通の方法では墳頂部に登り得るものではなかったと考えられるのである。墳丘の構造は丘陵の頂を削り出し、それを基として上部に厚さ約五〇糎の盛土をしていた。

原目山三八号墳は、三七号墳の東南に隣接する位置にある。墳丘の構造は地山を削り出し、その周囲に溝状遺構をめぐらせている。これも三七号墳と同様に溝を墳丘の基底におくとするならば約六〇度の勾配の急傾斜をもつものである。埋葬施設は、地山上に黄褐色の礫まじりの砂質土壌を約二〇糎から三〇糎の厚さで敷き、墳丘の縁辺部に高さ約六〇糎の土堤状のものを礫および赤土をもって積み上げて東西の長さ約四・五米、南北幅約三米の長方形のものを設えている。おそらくこの底部に遺体を埋葬し、その上部に盛土したものだと思われる。その後追葬された痕跡は認めることができなかった。それは盛土上面からの切り込みを平面と断面の両面から留意して探索したが、それらしいものは全く認めることが出来なかった結果によるものである。

原目山三九号墳は、三八号墳の東南に隣接し、墳丘の東南端は丘陵と同様の勾配で下降する縁辺部に当たり、その傾斜角に非常に類似している。三七号墳、三八号墳に溝状遺構があつて墳丘の表面が急傾斜しているのに対して、その勾配はゆるやかで溝状遺構はなかった。墳丘の盛土は浅く、どの面からも埋葬した痕跡がみとめられ

なかった。三七号墳、三八号墳では非常に僅小ながら土器片を採集したが、ここではまったく検出することが出来なかった。同じ丘陵に隣接して営まれているとはいえ、その構造が異なっているので、調査員のなかには、古墳であることに若干の疑問を抱くものもいるというのが偽らざる実情でもあった。しかしこれだけの墳丘を持つものが古墳でないというより、むしろ埋葬施設がすでに流失してしまったものと考えるべきものである。

重立山古墳群は原目山三七号墳、三八号墳、三九号墳のある丘陵の鞍部をへだてた向いにほぼ東西方向に並んでいる古墳群で西側の低いところから重立山一号墳、二号墳、三号墳、四号墳、五号墳と名付けられている。

重立山一号墳は、丘陵尾根の末端部にあって、もともと眺望のよい位置に造られている。墳頂部の径約一二米、平坦面から墳丘の傾斜面に移る縁辺部に径約二〇糎の円筒埴輪を約一・五米間隔で並べていた。それらのすべてものは破損していたが、原位置は明確なものであった。埋葬施設は、墳頂部から約一・七米の深さのところに南北方向に幅五〇糎、長さ四・一米の木棺を埋葬した跡があつて、その内部から青銅鏡一面と勾玉、扁平玉、管玉、鉄剣と漆の膜面等が検出された。また、さらに、その東側の一段高くなったところで鉄剣、鉄刀、鉄矛、鉄鏃、鉄斧、刀子、鉋、砥石、勾玉等を検出し、これは追葬されたものであらうと推定した。

重立山二号墳は、1号墳の東側にある。墳丘表土は凹凸があつて荒されているようであつたが、盗掘されたものではなかった。埋葬施設には、表土下約七〇糎で平坦面にした含木炭土層の上面に南北方向をとる鉄剣と鉄矛、鉄斧があり、その周辺部の外側にススの付着した土師器の細片が若干散布状態にあつた。この埋葬施設はまったく土壌内に埋葬されたものといえるものではなく、その含木炭土層の上面に直接埋葬し、その上に盛土したものであると判断された。さらにこの鉄剣の出たところから東側約三〇糎のところで表土下からはじまる墓壙を検出し、その底部の南北方向に長さ約三米の木棺の痕があるのを検出した。その北側に人頭大の石数個がかため

ておかれていた。これは木棺の外側を押えるために詰めたものであろう。この墓壙は追葬されたものと考えられる。

重立三号墳は、二号墳の東側にある低い墳丘をもつものである。調査は表土剥ぎから始めたのであったが、その段階では須恵器の破片などが出土した。それらは古墳の埋葬施設との関係が必ずしも明確とは言い難いものであった。そのような状態にあつては古墳であるかどうかという疑問も生じたが、幸いにも東側において非常に浅い溝状のものを検出し、しかもそれが円く弧を描くものであることが判明した。その結果、墳丘は相当に流失しているが、もとは円墳であつたことが確定したのである。墳丘の中央部に深さ約五〇厘の土壙があり、その中から、恐らく平安・鎌倉期と思われる土師皿が出土した。なお、その下底部にもとの埋葬施設があつて、わずかに地山を掘り下げられたくぼみがあつた。そのくぼみの南側に鉄製刀子が一本あつた。

重立山四号墳は、丘陵が一段と高くなる斜面の縁端部にあつて、東側の丘陵と区画するために円く弧状に深さ約一米の溝を掘り込んでいたので円墳であることが明確である。頂丘の上端の縁辺部東南隅において円筒埴輪が数個原位置にあることが確認された。しかし、他のほとんどは頂丘のまわりに破片となつて流下していた。

重立山五号墳は、四号墳の東側に在る数個所の高まりのうちでもっとも高い大きな径をもつものが五号墳として登録されていた。われわれは、まずこれを古墳として確認するため全面的に表面を掘り下げ調査したところ、例えもとそこに古墳が造られていたとしても地形的に土砂の流失が著しいところに当たるので現在、遺存しえないと判断せざるをえない状態であつた。それも四号墳においても北側の部分が若干流失している事実からも想定したのであつた。

上述のように原目山墳丘墓群で三基、重立山古墳群で五基の調査をしたところ、原目山墳丘墓群のものは墳丘

墓として認めざるを得ないが、重立山古墳群での五号墳は、調査の結果、現状では古墳とは認め難いことが判明した。この原目山墳丘墓群・重立山古墳群の両群は丘陵の鞍部をへだてた非常に近接した場所にあるにもかかわらず、墳丘の構造上著しく相異することが判明した。全く異質のものかというところとはいえない。地山ないしは埋葬施設基底部を平坦か、くぼませて棺を設え、その上部に埋葬して最後に盛土するという手法が両群に認められたのであるから、この点では原目山墳丘墓群と重立山古墳群は類似するといわねばならない。この手法が何時からのものであるかそれは現在不明であるが、ここでは伝統的なものを感じさせると同時に、時間的な差が著しいものであるとは言い難い感もなきにしもあらずである。とはいえ、原目山墳丘墓群のものは方形にして有溝、しかも驚くべき急傾斜の勾配をもった墳丘墓であり、これは重立山古墳群のものとは著しく相異する点である。

重立山古墳群の場合は幸いにして出土遺物に恵まれ、その時期もそれによって五世紀の後半以降のものであると推定されるのであるが、原目山墳丘墓群からの出土した土器片は畿内で庄内期のものとして考えられるものであり、わが国古墳発生の問題と直接結び付くことで重要な遺跡といわねばならない。

图

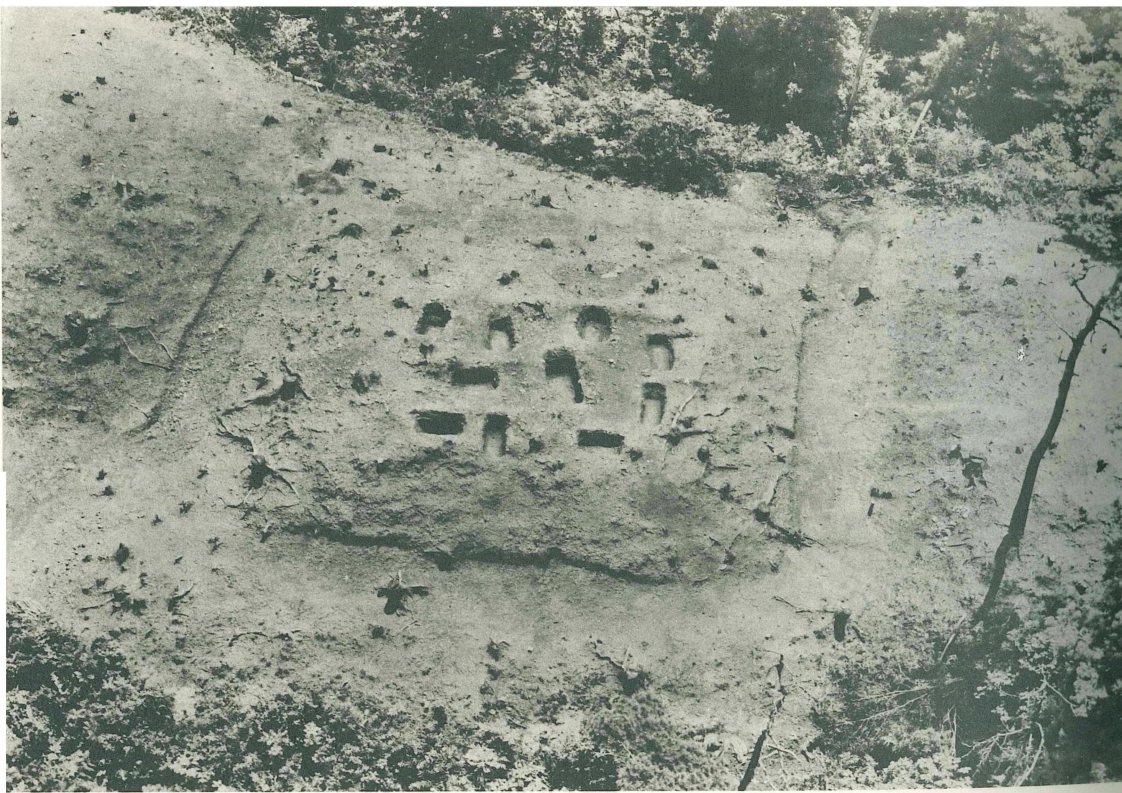
版



1 37号・38号・39号墳 空中写真（西から）



2 原目山墳丘墓群（重立4号墳よりみる）



1 36号墳（左）37号墳（中央）38号墳（右） 空中写真（南から）



2 37号墳 発掘調査前（西から）



1 37号墳 発掘調査前 (38号墳よりみる)



2 37号墳 発掘調査前 墳丘上面、36号墳 (東から)



1 37号墳（手前）の表土除去後状況（西から）



2 37号墳 墳丘上面表土除去後（北から）



1 37号墳 3区断面（東南から）



2 37号墳 3区断面（東から）



1 37号墳 盛土 土壙（南東から）



2 37号墳 断面と土壙をみる（東から）



1 37号墳 盛土下の状況（東から）



2 37号墳 盛土下の状況（北から）



1 37号墳 周溝南側と表土断面（東南から）



2 37号墳 周溝南側（東南から）



1 37号墳 周溝南側と表土断面（南西から）



2 37号墳 周溝南側（南西から）



1 37号墳 周溝北側（東北から）



2 37号墳 周溝東側（南から）



1 37号墳 周溝 東側（南東から）



2 37号墳 土器



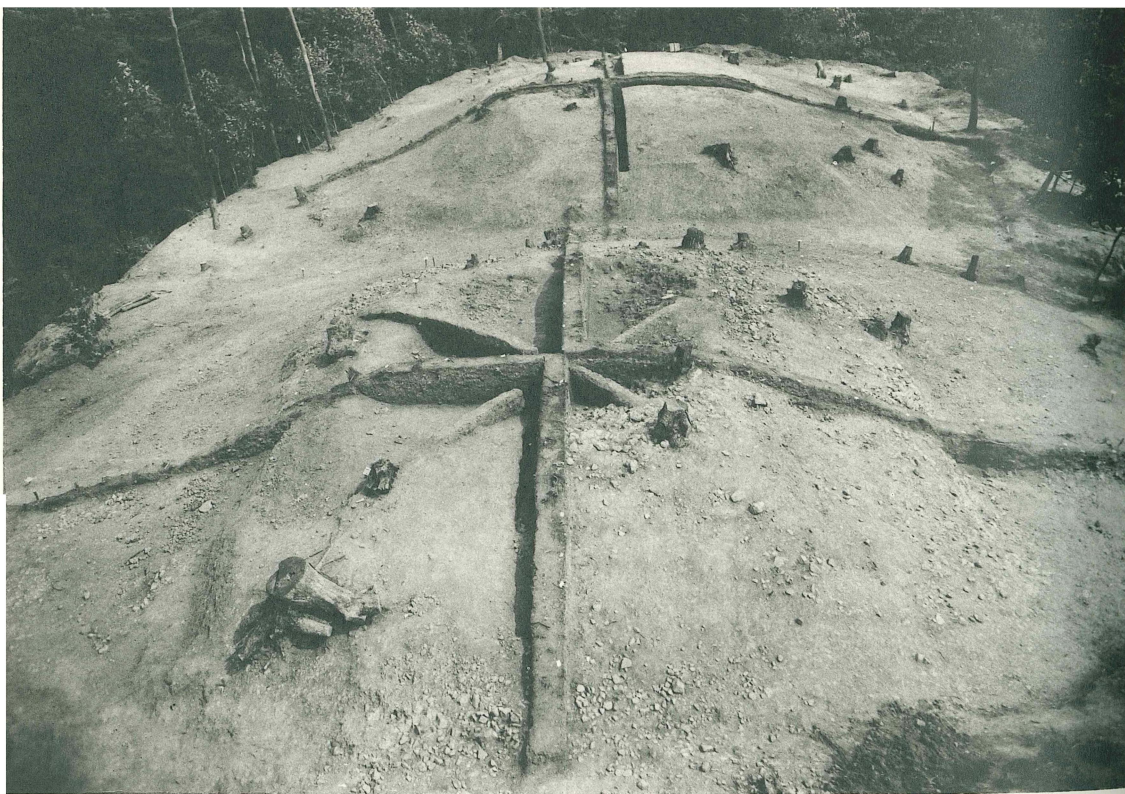
1 38号墳 空中写真（南から）



2 38号墳 発掘調査前（東から）



38号・39号墳 表土を削って礫面を出した状況（西南から）



1 38号墳中央部断面壁を残して掘り下げた状況（西南から）



2 38号墳 表土を削って礫面を出した側面の状況（南西から）



1 38号墳中央部礫石面を残し土砂を除去（西南から）



2 38号墳礫石面の状況と中央主体土壇の状況（北東から）



1 38号墳 周溝西側（南西から）



2 38号墳 墳丘礫石の状態（西から）



1 38号墳 周溝南側（北西から）



2 38号墳 周溝北側（北東から）



1 38号墳 周溝東側表土と溝底（北から）



2 38号墳 周溝東側溝底（北から）



1 38号墳 周溝東側表土と溝底（南から）

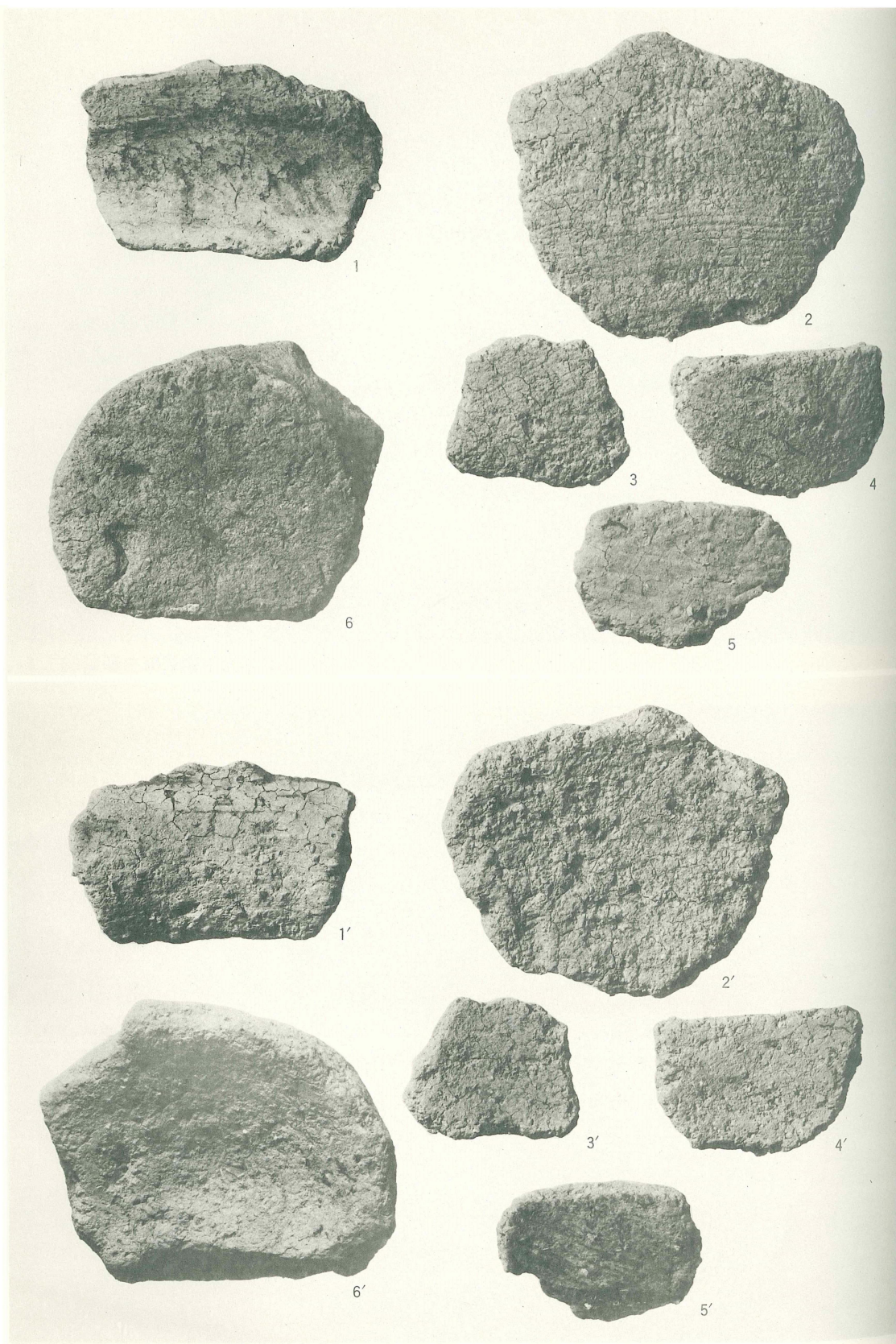


2 38号墳 周溝東側（南から）



38号墳2区 土器

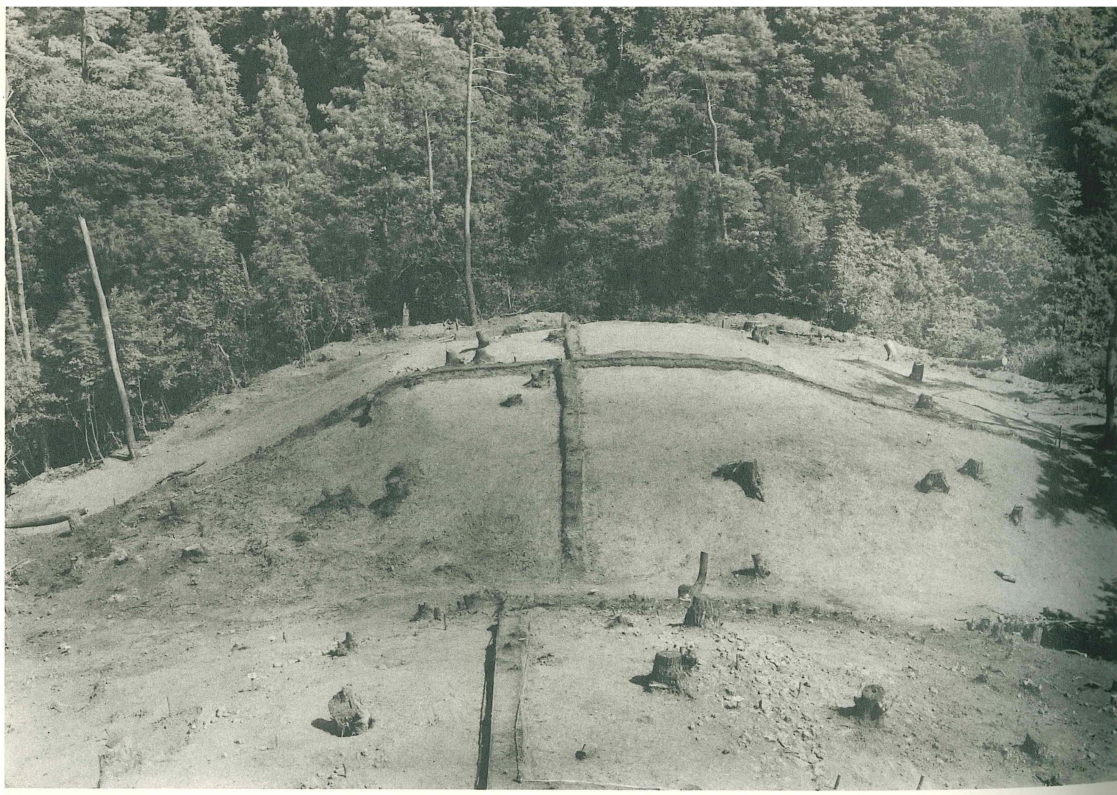
1・2. 口縁部 3～19. 胴腹部 20・21. 底部



38号墳4区 土器

1. 壺口縁部 2~5. 胴腹部 6. 底部

1'~6'. 裏面



1 39号墳を38号墳上よりみる（西から）



2 39号墳 墳丘断面（西から）



1 39号墳 3区墳丘断面（北東から）



2 39号墳 東端（南東から）



1 重立山古墳群遠景



2 重立山古墳群遠景



1 重立山古墳群を原目山よりみる（調査前）



2 重立山古墳群を原目山よりみる（調査中）



1 重立山古墳群周辺伐採後全景 調査開始時（東から）



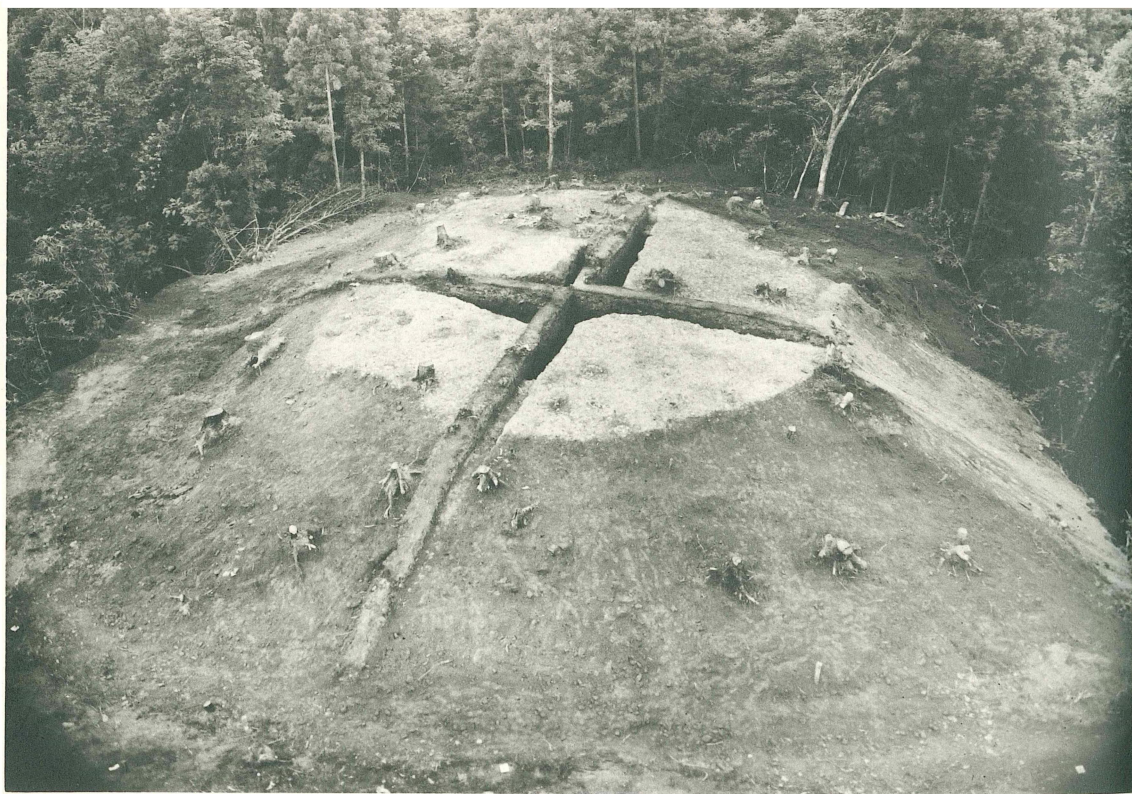
2 重立山古墳群全景 調査中 左から1号・2号・3号・4号墳（東から）



1 1号墳遠景 調査前（東から）



2 1号墳全景 調査前（2号墳から）



1 1号墳 墳丘の調査（2号墳から）



2 1号墳 中央部断面壁を除去（2号墳から）



1 1号墳 西南斜面葺石（西北から）



2 1号墳 西北斜面葺石（西南から）



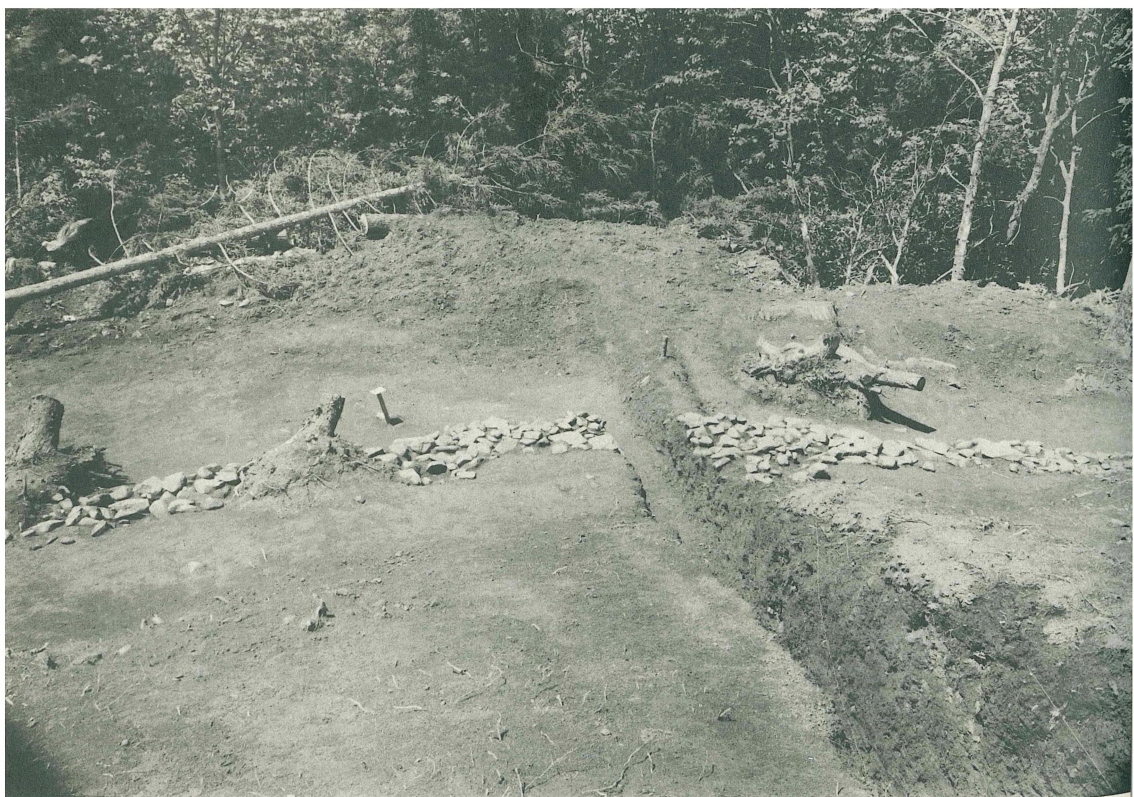
1 1号墳 西南斜面葺石基底部（西北から）



2 1号墳 西斜面葺石基底部（西から）



1 1号墳 西斜面葺石（墳頂から）



2 1号墳 西斜面葺石（墳頂から）



1 1号墳 墳丘上円筒埴輪（東から）



2 1号墳 円筒埴輪出土状況



3 1号墳 円筒埴輪出土状況



1 1号墳 葺石と埴輪片



2 1号墳 円筒埴輪出土状況